

1月20日～1月26日 商品検査実績

●微生物検査 282 検体

検査の結果特に問題はありませんでした。

●理化学検査 81 検体

食品添加物検査	24 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
残留農薬検査	今週は実施しておりません。	
簡易農薬検査	18 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
P C R 検 査	畜種判別検査	6 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。
	GMO検査	6 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。
	米のDNA異種米判定	今週は実施しておりません。
	コシヒカリ品種判定	3 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。
米鮮度判定	2 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
卵鮮度判定	今週は実施しておりません。	
アレルゲン検査	2 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
ヒスタミン検査	9 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
アフラトキシン(カビ毒)	今週は実施しておりません。	
放射性物質検査(スペクトロメータ※①)	11 検体(米2検体、野菜3検体、果物4検体、水産2検体)実施しました。全て検出下限値(約20Bq/kg)以下となりました。	
放射性物質検査(サーベイメータ※②)	今週は実施しておりません。	

- ・ヒスタミン検査＝ヒスタミンによる食中毒は、アレルギー様食中毒の一つであり、鮮度の低下したマグロやカツオ、サバなどの赤身魚やその加工品が原因となることが多いため、検査でヒスタミンの濃度を測定します。
- ・アフラトキシン＝アスペルギルス属の一部のカビが産生するカビ毒で肝臓がんの原因の一つと考えられています。アフラトキシンが作られる最適条件は、温度30℃前後、湿度95%以上であるため、高温多湿の熱帯地方等が最も適しています。輸入食品の安全性に関わるため、日本では、輸入時に行う抜き取りのカビ毒検査やカビそのものが生育していないか外見上の検査を実施しています。なお、日本国内で、食品にアフラトキシン汚染が起きる可能性は低いものと考えられています。

※①NaI シンチレーションスペクトロメータ：^{しゃへいたい}遮蔽体 付検査機器で核種を特定できるもの：ヨウ素131、セシウム134、セシウム137を測定

※②NaI シンチレーションサーベイメータ：^{しゃへいたい}遮蔽体 無しの持ち運びできる機器：ガンマ線総量を測定



組合員さん VOICE

組合員さんの 想いにこたえて

みなさんから寄せられた声を商品・運用にいかす取り組みをしています。

爽美肌メイク落とし洗顔石けんの次回案内はいつでしょうか。最近案内がないようです。

実現 しました

商品のリクエストをいただきありがとうございます。「爽美肌メイク落とし洗顔石けん」は、しばらく案内できておりませんでした。このたびのご要望により、2月3回くらしのパートナーで「爽美肌メイク落とし洗顔石けん 135g+泡立てネット付」を案内することになりました。この商品は、うるおい成分たっぷりのメイクも落とせる石けんで、使い勝手の良い泡立てネット付です。この機会にぜひご利用をお願いいたします。



今月のお知らせ



前回はノロウイルスによる食中毒を予防するために①加熱(中心温度 85℃~90℃で90秒以上) ②手洗い(石けんでの手洗いと流水でのすすぎを2回実施する) ③包丁、まな板などの殺菌(台所用塩素系漂白剤や熱湯での殺菌)をお知らせしました。

今回は、台所用塩素系漂白剤を使用した、次亜塩素酸ナトリウム溶液(200ppm)の調整方法をお知らせします。次亜塩素酸ナトリウム溶液(200ppm)は、家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤を水で薄めて作ります。

製品の塩素濃度	200ppmの濃度の塩素消毒液	
	液の量	水の量
12%	5mℓ	3ℓ
6%	10mℓ	3ℓ
1%	60mℓ	3ℓ

ご注意

- 塩素を含む製品の濃度によって効果が変わりますので、製品の濃度を確認し正しくはかりましょう。また使用期限が記載されているものは使用期限内のものを使用しましょう。
- 次亜塩素酸ナトリウムは金属を腐食させる性質がありますので、消毒後は薬剤を十分に拭き取りましょう。
- 消毒作業中はビニール手袋を使用し、十分に換気しましょう。



商品検査レポート 12月に実施した商品検査の結果をご案内します。

毎月の検査結果はHPにも記載しています。▶<http://www.naracoop.or.jp/goods/letter/kensadayori.html>

検査項目	検査数	結果									
微生物検査	1,027	店舗新規商品検査において「菓子1商品」が一般生菌数にて不適合となり、取扱いをしないこととしました。									
理化学検査	367	主な検査項目	食品添加物	簡易農薬	畜種判定	残留農薬 (外部検査機関へ依頼)	ヒスタミン	カビ毒	検査の結果、いずれも問題ありませんでした。		
放射線物質検査 (NaIシンチレーション スペクトロメータ※①)	62	米	野菜	果物	牛乳	鶏卵	水産	冷蔵日記	飲料	加工食品	検査の結果、 全て検出下限値 (20Bq/kg)以下でした。
放射線物質検査 (NaIシンチレーション サーベイメータ※②)	15	野菜	果物	きのこ	検査の結果、全てバックグラウンドとの差異が ※③3kcps(キロ・カウント・パー・セカント) 以内となりました。						

※①NaI(エヌイーアイ)シンチレーションスペクトロメータ:遠蔵体(しゃへいたい)付検出器で核種を特定できるもの:ヨウ素131、セシウム134、セシウム137を測定

※②NaIシンチレーションサーベイメータ:遠蔵体無しの持ち運びできる機器:ガンマ線総量を測定

※③kcps(キロ・カウント・パー・セカント):1秒間に対象となるものから何

回放射線物質が放出されているか測定するものです。バックグラウンド(放射線測定の際の測定対象以外からの放射線や宇宙線や天然の放射性物質に起因する)との差異を3以内としました。NaIシンチレーションサーベイメータではガンマ線総量を測定し、検出が疑われる場合は、NaIシンチレーションスペクトロメータで確認検査を行うこととしています。

